



水路140周年記念シンポジウム

『今後の海洋管理のあり方を考える』

～ 海洋立国「日本」の将来を見据えて ～

シンポジウム開催のお知らせ

第六管区海上保安本部及び(財)日本水路協会では、水路140周年を記念して、下記のとおりシンポジウムを開催いたします。

日時 平成23年8月24日(水) 15:00～17:45

場所 グランドプリンスホテル広島 2F「瀬戸内」

広島市南区元宇品町 23-1

TEL 082-256-1111

テーマ 『今後の海洋管理のあり方を考える』

～海洋立国「日本」の将来を見据えて～

概要 四方を海に囲まれた我が国では、海運、水産、資源開発などの観点から、我が国の排他的経済水域における権益確保が重要な課題であることは論を待たない。

そこで、海洋立国を目指す我が国において、昨今の海洋開発・利用の基盤となる、海洋管理に関する政府の取り組みの概要について紹介するとともに、今後の海洋管理のあり方を考えるうえでの試金石となり得る、瀬戸内海の果たす役割や意義に関して専門家の意見を交えながら、海洋立国「日本」の将来像をイメージする。



講師 廣瀬 肇氏 (広島文化学園大学 特任教授)

道田 豊氏 (東京大学大気海洋研究所 教授)

川村 紀子氏 (海上保安大学校 准教授)

仁田 一也氏 (瀬戸内海汽船株式会社 代表取締役会長)

後藤 昇氏 (広島県地域政策局 海の道プロジェクト担当部長)

岩淵 洋氏 (海上保安庁海洋情報部 海洋情報課長)

参加募集要領 (参加無料：200名程度、参加希望多数の場合は、厳正なる抽選の上決定させていただきます。)

①申込先 第六管区海上保安本部 海洋情報部 監理課(三浦、鶴谷)

FAX : 082-253-3682 E-mail : sodan6@jodc.go.jp

(お問合せ) TEL : 082-251-5111

②申込方法 FAX又はメールにて、氏名、住所、電話番号をご記入の上お申込下さい。

③申込期限 平成23年8月19日(金) 必着

お申し込みによる個人情報には本シンポジウム以外の目的には使用いたしません。

主催：第六管区海上保安本部

共催：(財)日本水路協会

後援：広島県・NHK広島放送局

水路140周年記念シンポジウム

『 今後の海洋管理のあり方を考える 』

～ 海洋立国「日本」の将来を見据えて ～

プログラム (15:00～17:45)

1. 主催者挨拶 (15:00～15:05)

(第六管区海上保安本部長 三木 基実)

2. 来賓挨拶 (15:05～15:15)

(広島県知事 湯崎 英彦)

(海上保安友の会広島支部長 深山 英樹)

3. セッション1 (15:15～16:35)

(1) 基調講演

① 「海洋台帳の整備 ～多面的な海洋利用に向けて～」

(海上保安庁海洋情報部海洋情報課 岩渕 洋 課長)

② 「海洋酸性化に伴う海底堆積物からの鉄の溶出 ～広島湾での例～」

(海上保安大学校 川村 紀子 准教授)

(2) 記念講演

「海洋管理のめざすもの ～国際的動向をふまえて～」

(東京大学大気海洋研究所 道田 豊 教授)

<休憩(10分)>

3. セッション2 (16:45～17:45)

パネルディスカッション

「海洋管理における瀬戸内の役割・意義を考える」

<パネリスト>

広瀬 肇 氏 (広島文化学園大学 社会情報学部 特任教授)

道田 豊 氏 (東京大学 大気海洋研究所 教授)

川村 紀子 氏 (海上保安大学校 准教授)

仁田 一也 氏 (瀬戸内海汽船株式会社 代表取締役会長)

後藤 昇 氏 (広島県地域政策局 海の道プロジェクト担当部長)

岩渕 洋 氏 (海上保安庁海洋情報部 海洋情報課長)

講演要旨

1. 基調講演

(1) 「海洋台帳の整備 ～多面的な海洋利用に向けて～」 (岩淵課長)

<要旨>

古代から近代に至るまで、海域利用とは「食物生産の場」、「交通の場」に限られていた。20世紀後半になって、養殖漁業が盛んになる一方、地域の重要な産業としての観光・レジャーの利用もなされるなど、海域の利用は交錯しつつある。さらには、日本の未来を担う「海底下資源採掘の場」、海潮流・洋上風力発電等の「再生可能な海洋エネルギー生産の場」としても期待されている。

2008年に策定された「海洋基本計画」では、海洋を積極的に利用・開発しつつ保全のバランスを図るため、海洋情報の一元的管理・提供の必要性が指摘されている。1965年に設立された日本海洋データセンターでは、2010年に海の情報のタウンページ「海洋情報クリアリングハウス」の構築・運用を開始し、2012年に向けて海域の諸情報を利用者が理解しやすいようビジュアライズして提供する「海洋台帳」の整備を進めている。

(2) 「海洋酸性化に伴う海底堆積物からの鉄の溶出 ―広島湾での例―」 (川村准教授)

<要旨>

大気中の二酸化炭素濃度の増加によって気温や海水温が上昇しており、また、二酸化炭素は海洋中に溶け込むことで海水は酸性化する傾向にある。

これまでの広島湾での海洋観測においては、特に夏季において海水が酸性化し、また、溶存酸素の低下によって海底が還元化していることが報告されている。

このような化学的環境では、海底に蓄積された金属がイオンとして海水中に放出され易くなる。とりわけ鉄イオンは、赤潮の原因となる渦鞭毛藻にとって必須元素であることから、今後の被害予測を行う上で重要な元素であると考えられる。

本講演では、これまで広島湾での鉄の分布や存在形態の変化を調査した結果を報告する。

2. 記念講演

「海洋管理のめざすもの ～国際的動向をふまえて～」 (道田教授)

<要旨>

ユネスコ政府間海洋学委員会でも「海洋空間計画」がクローズアップされるなど、国際的に「海洋管理」についての取り組みが盛んになってきている。

国際機関や各国の動きを見据えつつ、海洋基本法に基づいて我々(日本)はどのような方向に進むべきか、提言などを述べる。